

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度		2025年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科			
科目名称		保育内容指導法（環境）			授業形態	講義・演習			
科目コード	750068	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員	○	アクティブラーニング	○
担当教員名	早川 純子、宮内 孝、藤本 朋美、園田 博一							ICT活用	○
授業概要	<p>この授業では、子どもを取り巻く環境の多様な側面について学びます。環境には、自然やモノ、社会、人との関係、そして感性に働きかける要素など、様々な側面があり、それらが子どもの育ちや学びにどのような影響を与えるのかを探っていきます。保育者の関わりや環境の構成が、子どもの豊かな成長をどのように支えるのかについて、理論と具体的な実践例を通して理解を深めます。さらに、乳児保育における環境づくりの工夫や、小学校教育との接続、現代社会が抱える課題とそれに対する保育の役割についても考察します。授業を通して、保育者としての視野や感性を広げ、子ども・保護者と共に環境を創造する力を育むことを目指します。</p>								
関連する科目	5領域を総合的に関連づけながら保育を展開するために、「保育内容指導法」の各科目を受講することが求められます。								
授業の進め方と方法	複数の教員によるオムニバス形式で行います。授業では、実際の事例を通じて理論と実践のつながりを理解し、グループワークにより協働性やコミュニケーション能力を高め、保育現場で求められる対応力を養います。								
授業計画【第1回】	第1回 オリエンテーション								
授業計画【第2回】	第2回 子どもを取り巻く環境 子どもを取り巻く多様な環境を捉え、年齢に応じた保育のあり方と環境が育ちに与える影響について学ぶ。								
授業計画【第3回】	第3回 自然とのかかわりを通して生まれる育ち（学び） 自然とのかかわりを通して子どもが得る経験や育ちの意味を捉え、自然とのかかわりの重要性や保育における実践のあり方について学ぶ。								
授業計画【第4回】	第4回 モノとのかかわりを通して生まれる育ち（学び） モノとのかかわりが子どもの育ちや学びに与える影響と、その実践において保育者が果たす役割について学ぶ。								
授業計画【第5回】	第5回 身近な環境とのかかわりと感性の育ち 身近な環境とのかかわりを通じて、子どもが感性を育み、手で感じることや自分で感じ取る力を育む重要性について学ぶ。								
授業計画【第6回】	第6回 社会とのかかわりを通して生まれる育ち（学び） 社会とのかかわりを通じて子どもが育む学びと、環境から見えてくる社会とのかかわり方について学ぶ。								
授業計画【第7回】	第7回 保育における「領域」の意義と領域「環境」のねらい及び内容 保育における「領域」の意義と「環境」のねらい・内容、またその評価方法について学ぶ。								
授業計画【第8回】	第8回 乳児保育における「環境」とのかかわり 乳児保育における「環境」とのかかわりを通じて、探索的なかかわりや多様な動きを引き出す保育の計画と振り返りについて学ぶ。								
授業計画【第9回】	第9回 モノとのかかわりを支える保育の展開 モノとのかかわりを支える保育の展開を通じて、遊びを深めることで子どもの感覚や理解が豊かになり、失敗から学び続ける力を育む方法について学ぶ。								
授業計画【第10回】	第10回 自然とのかかわりを支える保育の展開 自然とのかかわりを支える保育の展開を通じて、子どもが自由にかかわり、感じたことを受け止め、多様な自然との出会いを通じて深い経験を得るための援助と指導案作成について学ぶ。								

授業計画【第11回】	第11回 社会とのかかわりを支える保育の展開 社会とのかかわりを支える保育の展開を通じて、社会とのかかわる力を育み、生活に関連する情報や施設、地域の伝統や文化、外国の文化への興味・関心を促す方法について学ぶ。
授業計画【第12回】	第12回 領域「環境」と小学校教育のつながり 領域「環境」と小学校教育のつながりを通じて、保育と小学校教育のかかわりや、小学校教育への接続を意識した幼児教育・保育の展開の可能性について学ぶ。
授業計画【第13回】	第13回 環境における現代的課題と保育 環境における現代的課題と保育を通じて、安心して続いていく社会のために必要な視点や、資本主義が生み出した問題、SDGs、ノンヒューマンへのまなざし、そして現代の保育の役割について考える。
授業計画【第14回】	第14回 共に環境を創造する「創り手」としての子ども・保育者・保護者の育ち合い 共に環境を創造する「創り手」として、子どもと保育者が一緒に創る環境や、環境と対話する子どもたち、大人と子どもの響き合いを通じて、育ち合いの重要性を学ぶ。
授業計画【第15回】	第15回 グループワーク及び発表 グループワークを行い、これまでの学びを共有することで理解をさらに深めていきます。
授業の到達目標	1. 子どもを取り巻く多様な環境（自然、モノ、社会など）が子どもの育ちに与える影響を理解し、それに基づいた保育の実践方法を学ぶこと。 2. 子ども、保育者、保護者が共に環境を創造し、育ち合う重要性を認識し、協力的な環境作りの方法を学ぶこと。 3. 保育者として、子ども一人ひとりの特性に応じた適切な環境を整え、子どもの育ちを支える方法を具体的に理解し、実践的に身につけること。 4. 現代的な課題（SDGsやノンヒューマンに対する視点など）を踏まえた保育の意義と実践方法を考察し、未来の保育における役割を明確にすること。 5. グループワークを通じて、学びを振り返り、他者と協力しながら理解を深めること。
学位授与の方針（DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	予習については、指定された文献を事前に熟読し、次回の講義内容を把握しておく。専門用語の意味も調べ、理解しておくこと。（学修に係る標準時間は約1時間）
授業時間外学習【復習】	復習については、授業内容を振り返って要点を整理し、さらに関連情報を収集しまとめる。課題が貸される場合は、課題の作成を行う。（学修に係る標準時間は約1時間）
課題に対するフィードバック	課題については、評価して解説を行う。
評価方法・基準	講義者全員の評価を総合して判断する。
テキスト	適宜、資料を配布する。
参考書	シリーズ「新しい保育講座 9」 『保育内容「環境」』久保 健太、高嶋 景子、宮里 暁美 編著（ミネルヴァ書房）
備考	